

第43回症例検討会

case64

「脊柱管狭窄症に対しセルゲル法を受けた
臀部・会陰部痛の症例」

2025年2月10日

70歳代 女性

主訴:臀部～会陰部痛

医師の診断名:腰部脊柱管狭窄症

家族歴:(父: 悪性腫瘍・詳細不明)(母:老衰)

既往症:特記事項なし

医療機関:整形外科 **内服薬・サプリー類:**なし

生活歴:アルコール・喫煙なし、日常的に畑仕事をおこなっている

食事:和食中心(ご自分で作った野菜を召し上がることが多い)

酸味・温かい食事を好む、定期的に友人と会食に行く

出産歴:不明 **アレルギー:**なし **検査歴:**MRI

その他愁訴:汗をかく、眼のかすみ、耳鳴、唇の乾燥、水分を多くとる

【現病歴】

X-5～6年：腰痛のため総合病院の整形外科を受診

“**腰部脊柱管狭窄症**”と診断され、保存療法を希望。

Aクリニックを紹介される。

Aクリニック内のリハビリに通院し症状軽減する。

パンデミックにより、感染への恐怖心から通院を中断。

X-1年5月：腰痛が再発し、脊柱管狭窄症の治療を調べ

“**セルゲル法**”を知り、Bクリニックで施術を受ける。

4か所狭窄している箇所(高位不詳)があると指摘され、

4か所にセルゲル法をおこない腰痛軽減する。

セルゲル法

エチルアルコール、セルロース、タングステンから構成される Disco Gel®を椎間板内に投与し、髄核を融解する治療法
髄核が融解されることで椎間板内圧の減圧を図る

主に、慢性腰痛やヘルニアによる神経根症などに適応される

* Pub Med、Google Scholarで検索したところ、脊柱管狭窄症
に対する症例報告は見当たらず、予後や効果は不明

X-1年10月頃：下臀部～会陰部の痛みを自覚

時期不詳：Bクリニックに連絡

「疼痛緩和をおこなう施設を紹介する」

5泊6日で**リハビリ・マインドフルネス・食事療法・鍼灸・マッサージ**を受ける。

症状の改善に乏しかったが鍼灸治療が一番良かった、とBクリニック側に伝える

X年7月：Bクリニックから当院を紹介され来院
(当院はBクリニックと面識なし)

客観的情報

O(objective) 客観的情報

身長: 160cm 体重: 57kg BMI:22.27

発症様式: 緩徐

増悪・寛解因子: 座位・車の運転・前屈・時に歩行で増悪
(特に座位・車の運転が辛い)、臥位で寛解

痛みの性質・程度: 左>右、臀部の奥に刺すor息が詰まる痛み、NRS4/10

場所・放散の有無: 下臀部～会陰部にかけて痛む、放散痛や下肢のしびれ(-)

随伴症状: なし 時間経過: 緩徐増悪

治療

座位・運転などの臀部に圧がかかる状態で増悪し**馬尾症候群**が認められず、前屈で軽減しないこと、臀部の圧痛点から梨状筋・内閉鎖筋・下双子筋の筋筋膜性疼痛及び後大腿皮神経(あるいは陰部神経)の絞扼が要因の一つと考えた

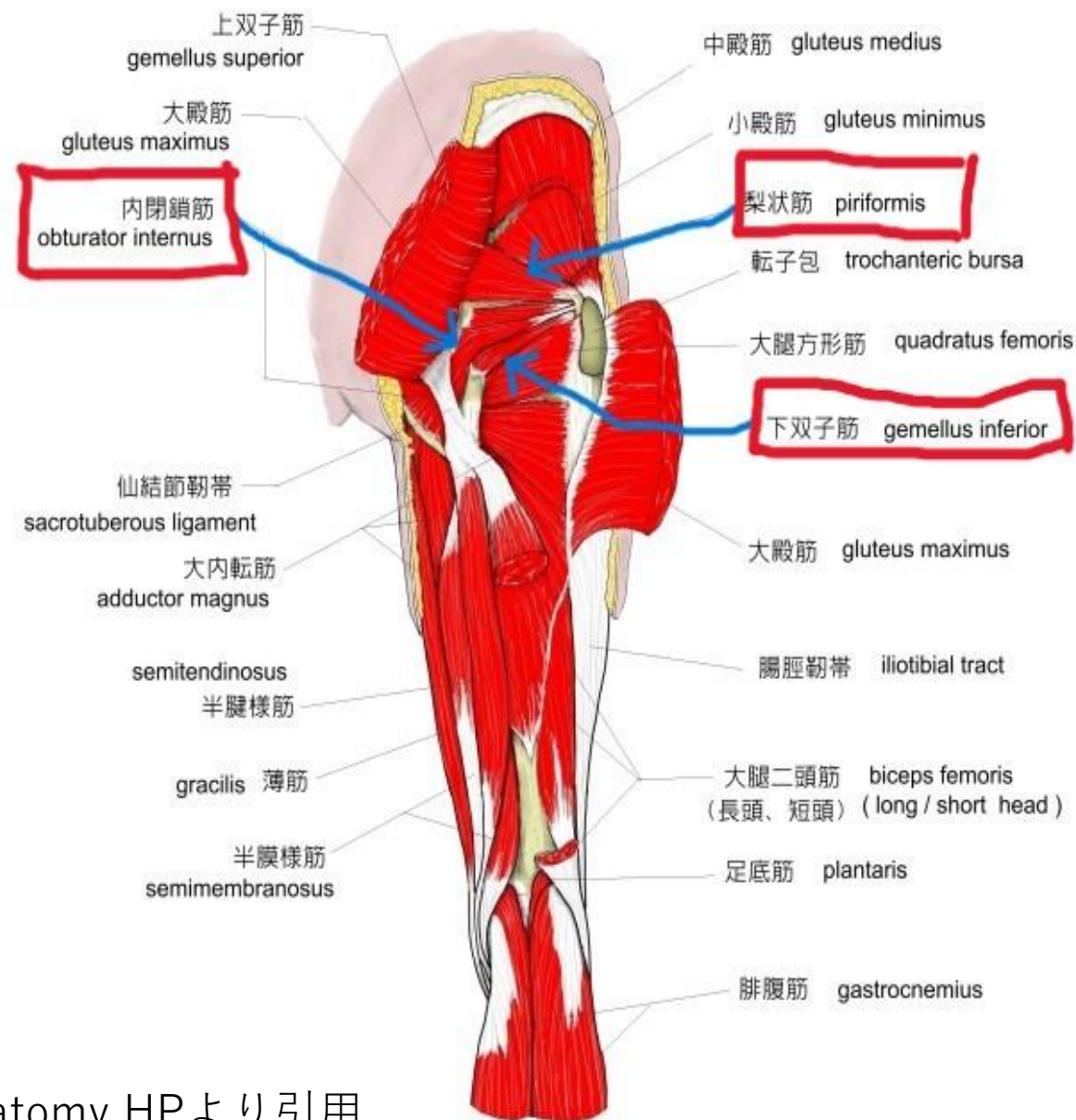
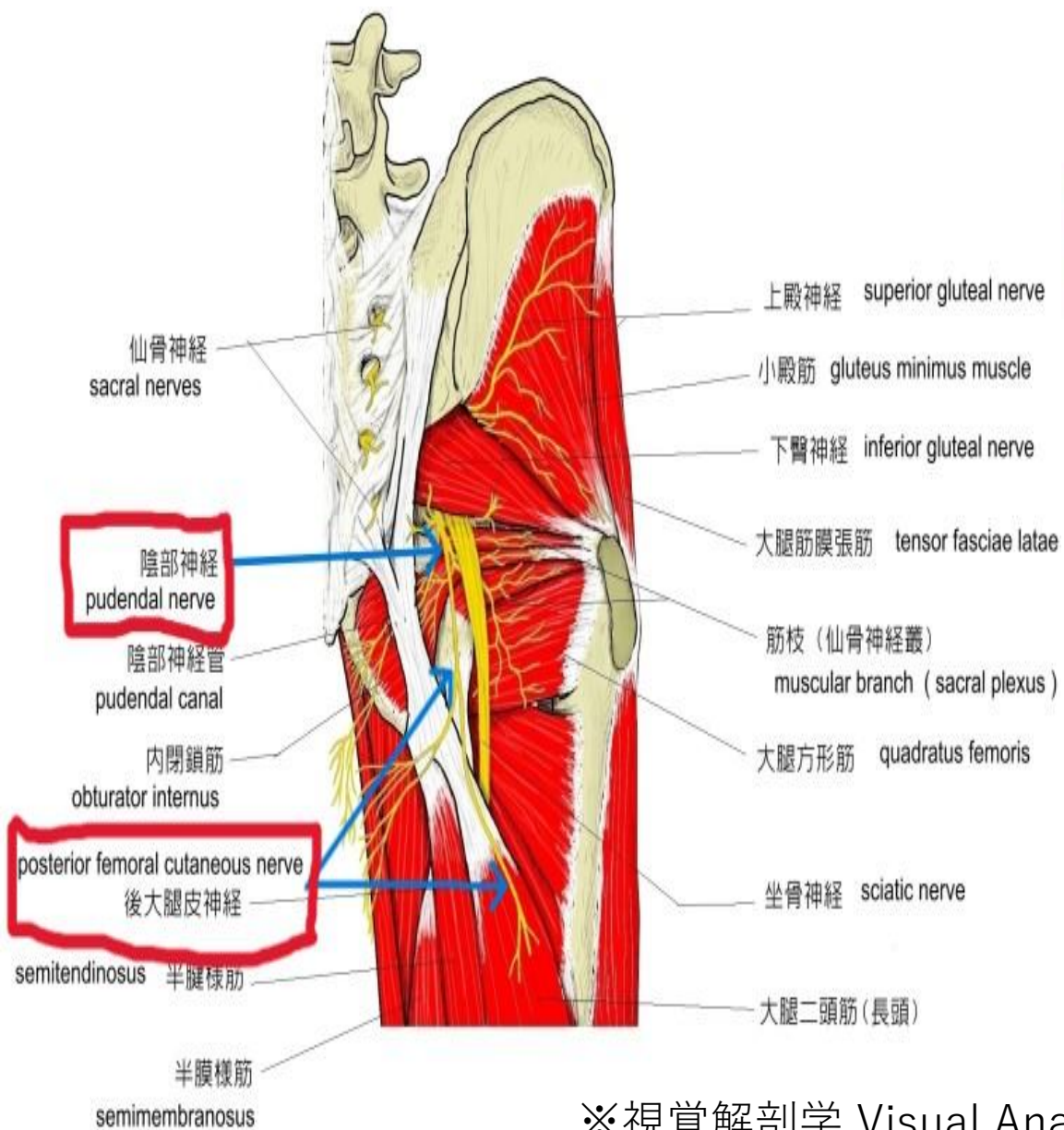
取穴:中膂腧、内閉鎖筋/下双子筋圧痛点、腰神経叢刺鍼点(L4,L5)

刺鍼法:直刺

得気:有 深さ:25mm~45mm

通電:有、(2Hz、10分：テクノリンク社製ラスパーエース)

頻度:1回/w



※視覚解剖学 Visual Anatomy HPより引用

馬尾症候群

馬尾症候群は、下肢遠位部の不全麻痺と罹患神経根の支配領域（しばしばサドル領域）の感覚消失の他膀胱、腸管、および外陰の機能障害（例、尿閉、頻尿、尿または便失禁、勃起障害、直腸の緊張低下、異常な球海綿体反射および肛門括約筋反射）を引き起こす。括約筋の機能喪失により、尿閉または尿失禁が生じる。

※MSDマニュアルより引用

経過

x年7月：初回、Bクリニックの紹介で来院
臀部痛について医療機関を受診していないとのこと、
当院はクリニック側からの情報提供を受けていないため
「**鍼灸治療と併行しつつ現在の状態を確認する意味でも
医療機関を受診してみてもは**」と勧めるが、「しばらく
鍼灸治療で様子を見ていきたい」と希望される

x年7月：2回目、治療直後より疼痛の軽減を自覚

X年7～9月：日によって症状の増減あるが全体に改善傾向

座位：2～3hの座位保持で痛む→5h座っていたが痛くなかった

運転：運転中や後方確認時に刺すように痛む
→後方確認時も痛みなく、トラクターの運転(凸凹道)も痛くない、鎮痛薬も7月から服用していない

前屈：時々痛む→重いものを持ち上げなければ大丈夫

歩行：時々痛む→歩行時痛は感じない、以前より長距離を歩けるようになった(元々の歩行可能な距離は不明)

疼痛：NRS4/10→2/10

※鍼灸治療による良性変化がみられた

x年7～9月の間、治療中の会話で以下の通り考えていることが窺えた

- ・ Aクリニックで改善していたがCOVID-19の感染が怖かったので継続的に通院せずに治せる方法を探していた
- ・ 現在は元々感じていなかった痛みが出ており施術を受けたことを悔やんでいる様子
- ・ **Aクリニックの先生に後ろめたい気持ちがある**
- ・ ある程度の痛みとは付き合っていかなければという気持ちになっている

x年10月：症状の改善が頭打ちになる

再度、医療機関の受診を勧めるもためらっている様子

「以前のリハビリで症状が改善していたこと、コロナが怖く、通院せずに済むようセルゲル法を選んだこと、施術後の経緯と現在の症状について記載した上で、診察をお願いします。という内容で施術報告書を作りますのでいかがですか？」

と伝えたが、もうしばらく鍼灸治療のみでと希望される

「いつでも報告書をお渡しするので受診する気持ちになったら仰って下さい」

と伝える。

X年10月：9月の時よりも臀部痛が気になる。

下旬 友人と海外旅行に行く予定で、楽しみにしている。

X年11月：当院に電話にて「**旅行の帰りの飛行機で長時間座っていたら臀部痛が悪化し、まともに座っていられず、車での移動が困難なので、通院出来ない状態。落ち着いたらまた連絡する**」とのことで鍼灸治療中断となる。

考察

- ・ 痛みの原因は**セルゲル法**によるものか？
セルゲル法によるものであった場合どのような状態なのか？
あるいは、畑仕事などの日常生活に起因するものか？
- ・ 鍼灸治療で症状の軽減がみられていたが、臀部深層の組織は触知困難であるため、**エコー等で確認しながら刺鍼**をおこなえば結果も違っていただかもしれない
- ・ 医療機関を受診することで状況を詳細に調べられたと思われ、**声掛けや勧め方に工夫が足りなかったと感じている**

文献

- Stagni S, de Santis F, Cirillo L, Dall'olio M, Princiotta C, Simonetti L, Stafa A, Leonardi M. A minimally invasive treatment for lumbar disc herniation: DiscoGel[®] chemonucleolysis in patients unresponsive to chemonucleolysis with oxygen-ozone. Interv Neuroradiol. 2012 Mar;18(1):97-104. doi: 10.1177/159101991201800113. Epub 2012 Mar 16. PMID: 22440607; PMCID: PMC3312096.
- Guarnieri G, De Dominicis G, Muto M. Intradiscal and intramuscular injection of discogel[®] - radiopaque gelified ethanol: pathological evaluation. Neuroradiol J. 2010 Apr;23(2):249-52. doi: 10.1177/197140091002300216. Epub 2010 Apr 20. PMID: 24148546.